

エネルギー

Field Intelligence Report

Vol. 48 | 2026.06.08 - 06.14 | 分析記事 91件

全固体電池 / ペロブスカイト太陽電池 / 水素エネルギー / 次世代蓄電

マーケットムード

78

/ 100 加速と競争

次世代エネルギー技術の商用化加速とサプライチェーン再編

全固体電池、ペロブスカイト太陽電池、水素、次世代蓄電が各国政府支援と民間投資で実用化へ前進、AIデータセンター需要が新たな牽引役に浮上る

全固体電池セルコスト目標	ペロブスカイト・シリコンタンデムセル効率	グリーン水素製造コスト目標	EVバッテリーリサイクル市場規模
1元/Wh	35.2%	1kgあたり2ドル	69億ドル
2030年目標	世界記録	2026年目標	2026年予測
国軒高科 (S1-03)	UNSW (S2-03)	米国DOE (S3-14)	Invrecovery (S4-15)

今週の総括

今週のエネルギー分野は、全固体電池の中国勢による量産化目標、ペロブスカイト太陽電池の高効率化と耐久性課題、グリーン水素の大規模プロジェクト稼働、そして多様な次世代蓄電技術の進展が特徴である。特にAIデータセンターの電力需要増が、燃料電池やBESSの新たな市場を創出。各国政府は国内サプライチェーン強化とコスト削減を強かに推進し、技術開発と商業化が加速する一方、リチウム価格の再上昇や地政学リスクが課題として残る。半固体電池が過渡期ソリューションとして台頭し、実用化への道筋が多角化している。

4サブトピック サマリー

サブトピック	主な動向	勢い	主要プレイヤー
全固体電池	中国東風汽車が酸化物-ポリマー複合固体電解質で航続距離1,000km超を達成し2026年後半に量産開始を計画。国軒高科はLi ₂ S低コスト合成で2030年までに1元/Whを目指す。	↑ 上昇	東風汽車、国軒高科、日産自動車、Factorial Energy
ペロブスカイト太陽電池	UNSWがタンデムセルで35.2%の効率を達成。中国では3GW級工場建設が進み、フレキシブル市場は2028年に27億ドルへ拡大予測される。	↑ 上昇	UNSW、Oxford PV、Trina Solar、Huasun
水素エネルギー	NEOMの84億ドル級グリーン水素施設が最終建設段階へ。フラウンホーファーISEは太陽光-水素変換効率31.3%を屋外で達成し、コスト目標達成を加速する。	↑ 上昇	NEOM、Wärtsilä、EWE、Salzgitter

次世代蓄電	GMがPeak Energyと提携し定置型ナトリウムイオン電池を開発。テスラは年産50 GWhのMegapack工場を建設し、次世代Megapack 3を2026年下半年に出荷する。	↑ 上昇	GM、Tesla、Eos Energy、Invinity Energy Systems
-------	---	------	---

今週の注目トレンド（全5件）

TR-01 HIGH 分野横断

次世代バッテリー量産競争激化

全固体電池は中国勢が2026年後半から量産開始、日米欧も技術開発とサプライチェーン構築を加速する。

全固体電池分野では、中国の東風汽車が2026年後半に航続距離1,000km超の酸化物-ポリマー複合固体電解質電池の量産を開始し、BYDやSAICも2027年市場投入を目標とする。一方、日産はLiCAP Technologiesとの提携で乾式電極技術を導入し、2028年度の市場投入を目指す。米国Factorial EnergyもNasdaq上場と1.3億ドル調達を達成し、実路試験を開始。コストが普及の主要障壁となる中、国軒高科はLi₂S低コスト合成で2030年までに1元/Whを目指すなど、各国が量産化とコスト削減で主導権を争う。

東風汽車量産開始

2026年後半

国軒高科コスト目標

1元/Wh (2030年)

Factorial Energy調達額

1.3億ドル

▶ 東風汽車 ▶ BYD ▶ SAIC Motor ▶ 日産自動車 ▶ Factorial Energy ▶ 国軒高科

参照: S1-01 S1-02 S1-03 S1-06 S1-09

TR-02 HIGH 分野横断

AIデータセンターが新市場創出

AIデータセンターの電力需要急増が、燃料電池、定置型BESS、CO₂バッテリーなど次世代エネルギー貯蔵・供給技術の導入を加速する。

AIデータセンターの爆発的な成長は、安定した大規模電力供給の新たな需要を創出している。米国ではFuelCell Energyが12.5MWの標準化された燃料電池ブロックを導入し、Sprintexは燃料電池用コンプレッサー技術をAIデータセンター市場へ展開。GMはPeak Energyと提携し定置型ナトリウムイオン電池を開発、Redwood Materials製EVバッテリー再利用BESSも展開する。スイスFlexBaseはInvinity Energy Systemsと世界最大2.1GWhのバナジウムレドックスフロー電池システムを構築し、Energy DomeはCO₂バッテリーPlusを発表。これらの技術は、データセンターの脱炭素化と電力網安定化に貢献する。

FuelCell Energyブロック

12.5MW

FlexBase VRFB容量

2.1GWh

中国データセンター義務

80%再エネ

▶ FuelCell Energy ▶ Sprintex ▶ GM ▶ Peak Energy ▶ Invinity Energy Systems ▶ Energy Dome

参照: S3-11 S3-18 S3-27 S4-01 S4-06

TR-03 MID 分野横断

サプライチェーン国内化とリスク

米国DOEはバッテリー材料・リサイクルに30億ドルを助成し、EUは中国へのバッテリー依存に対抗する新戦略で国内生産を強化する。

米国は国内バッテリーサプライチェーン強化のため、DOEがABTCにリチウム精製所建設で1.15億ドル、LiCAP Technologiesに全固体電池製造拡大で1,130万ドル、さらに国内バッテリー製造・リサイクルに30億ドルを助成する。EVバッテリーリサイクル市場は2026年に69億ドル規模に達し、Redwood MaterialsやCirba Solutionsが大規模施設を稼働予定。EUも270億ユーロ相当の中国製バッテリー依存に対抗し、許可期間短縮と15億ユーロ融資で欧州ギガファクトリーを支援する。リチウム価格の再上昇は、重要鉱物の地政学的リスクと国内調達の重要性を浮き彫りにする。

米国DOE助成金 30億ドル	EU中国依存 270億ユーロ	リチウム価格 24,086ドル/トン
--------------------------	--------------------------	------------------------------

▶ American Battery Technology Company ▶ LiCAP Technologies ▶ Redwood Materials ▶ Cirba Solutions ▶ 欧州委員会 ▶ 米国エネルギー省

参照: S1-04 S1-24 S4-07 S4-08 S4-17

TR-04 MID 分野横断

高効率・長期安定性技術革新

ペロブスカイト太陽電池は35.2%効率達成も耐久性10年が課題、全固体電池はデンドライト抑制で6000時間超寿命を実現する。

ペロブスカイト太陽電池では、UNSWがタンデムセルで35.2%の効率を達成したが、商業化には25~40年の長期安定性が課題。Oxford PVは2027年までに20年寿命を目指す。全固体電池では、KAISTと高麗大学が電解質へのチオフェン添加でデンドライト形成を抑制し、4 mA/cm²以上の高速充電と長寿命を実現。自己修復性ポリマー電解質も6000時間以上の超長寿命を達成した。水素エネルギー分野では、フラウンホーファーISEが太陽光-水素変換効率31.3%を屋外で達成し、高効率なグリーン水素生産を可能にする。これらの技術革新は、次世代エネルギーシステムの性能と信頼性を飛躍的に向上させる。

ペロブスカイト効率 35.2%	全固体電池寿命 6000時間超	太陽光-水素効率 31.3%
---------------------------	---------------------------	--------------------------

▶ UNSW ▶ Oxford PV ▶ KAIST ▶ 高麗大学 ▶ フラウンホーファーISE ▶ Gelion Technologies

参照: S1-08 S1-14 S1-16 S2-03 S2-06

TR-05 LOW 全固体電池

半固体・ハイブリッド電池台頭

全固体電池の量産課題に対し、中国自動車メーカーが半固体電池EVを相次ぎ投入、既存生産ラインとの互換性が強みとなる。

全固体電池の量産化には依然として課題が残る中、半固体・ハイブリッド電池が過渡期ソリューションとして注目を集めている。中国ではSAIC MotorのMG4やNIOの150kWh半固体電池パックなど、複数の自動車メーカーが半固体電池搭載EVを市場に投入または発表。CALBとSVOLTは2026年下半期に半固体電池の量産を開始する予定。半固体システムは既存の生産ラインの約80%を利用可能であり、初期投資を抑えつつ、優れた熱安定性とエネルギー密度、発火リスク低減を実現する。これは、全固体電池が本格普及するまでのギャップを埋める重要な役割を果たす。

半固体電池ライン互換性 80%	CALB/SVOLT量産 2026年下半期	MG4モデル導入 ハイブリッドシステム
---------------------------	---------------------------------	-------------------------------

▶ SAIC Motor ▶ NIO ▶ Chery ▶ GAC Group ▶ CALB ▶ SVOLT

参照: S1-07 S1-10 S1-11

マクロ環境・市場指標

指標	フェーズ	現状	評価	詳細
リチウム価格動向	再上昇局面	24,086ドル/トン	EV・BESS需要増と供給逼迫で価格が再上昇、地政学リスクも影響	2023-2025年の急落後、バッテリーグレード炭酸リチウムのスポット価格が1トンあたり約24,086ドルに再上昇。活発な在庫補充と輸出需要、中東紛争による硫酸供給逼迫が牽引する。
グリーン水素生産能力	倍増期	倍増予測	2026年に稼働生産能力が倍増の見込み、大規模産業プロジェクトが牽引	S&P; Globalによると、世界の水素セクターは計画段階から実行段階へ移行し、2026年には稼働中の生産能力が倍増する見込み。数百MW規模の施設への移行が加速する。
BESS安全性基準	厳格化	UL 9540A 第6版	UL 9540A第6版で設置レベルの火災試験を義務化、NFPA 855も更新	BESSの規模拡大に伴い、UL 9540A第6版は設置レベルでの大規模火災試験を義務化。NFPA 855は能動的な爆発制御システムを要求し、資金調達と系統連系に不可欠となる。
中国電力貯蔵政策	容量料金導入	容量料金導入	2026年容量料金導入でBESSコストを米国・日本より最大40%低減	中国は2026年1月「Notice 114」によりBESSに容量料金を導入。標準的な4時間リチウムイオン電池システムの貯蔵平準化コストを米国・日本より28%~40%低減する。

マクロ環境サマリー

今週のエネルギー市場は、次世代技術の商用化加速と地政学的なサプライチェーン再編が顕著である。リチウム価格の再上昇はEV・BESS需要の堅調さを示す一方、原材料の安定供給とコスト抑制が喫緊の課題。グリーン水素は大規模プロジェクトの稼働で生産能力が倍増し、AIデータセンターの電力需要が新たな牽引役となる。BESSの安全性基準厳格化は技術成熟度を高めるが、導入コストへの影響も注視される。中国の容量料金導入は、同国の電力貯蔵市場の競争力をさらに強化するだろう。

市場データ: LIT (蓄電・電池) 週次トレンド

82.37 USD +5.20%

全固体電池電解質市場規模予測 出典: YH Research (S1-23)

2026-2032年 CAGR 49.7%で急成長

年	前回(百万ドル)	今回(百万ドル)	増減
2025	34.02	34.02	+0.0
2026	50.92	50.92	+0.0
2027	76.22	76.22	+0.0
2028	114.1	114.1	+0.0
2032	743.0	743.0	+0.0

全固体電池用アイソスタティックプレス機生産台数 2025年 約102台 → 2032年 2.76億ドル市場: +8.4% CAGR

電極と固体電解質の密着性向上に不可欠な技術。市場規模は2025年の1.31億ドルから2032年までに2.76億ドルに成長予測。

プレイヤー別行動提案

最終製品メーカーへの行動提案

Original Equipment Manufacturer トヨタ、日産自動車、東風汽車、BYD、SAIC Motor、Stellantis、GM、Helios Horizon

中国OEMは全固体電池の2026-2027年量産目標を公表し先行。日産は乾式電極技術で2028年度市場投入を目指す。GMは定置型ナトリウムイオン電池開発でBESS市場へ参入する。

リスク

- 中国勢の全固体電池量産先行により、日系OEMはサプライチェーン確保で競争劣位に陥る
- 次世代バッテリーのコスト高がEV販売価格に転嫁され、消費者の購買意欲を減退させる
- ペロブスカイト太陽電池の耐久性不足が、製品保証期間中の交換コストを増加させる

機会

- 全固体電池搭載EV（航続距離1,000km超）を2027年までに市場投入し、プレミアムEV市場で優位性を確立する
- AIデータセンター向け燃料電池・BESS（市場規模拡大中）を自社施設に導入し、電力コストを削減する
- リチウム硫黄電池（2035年12億ドル市場予測）を電動航空機・ドローンに採用し、新モビリティ市場を牽引する

今週のアクション

- 今週中に中国の全固体電池サプライヤー（国軒高科、CATL）と量産供給に関する初期協議を開始し、2027年以降の調達計画を策定する
- Q3 2026までに自社EV向け全固体電池の乾式電極技術（LiCAP Technologies）導入可否を評価し、開発ロードマップを更新する
- 2027年までにAIデータセンター向け燃料電池（FuelCell Energy）またはBESS（Tesla Megapack）の導入計画を策定し、電力安定供給と脱炭素化を両立する

□ シナリオ：もし中国OEMが2027年までに全固体電池搭載EVを低価格で大量投入した場合、日系OEMは同年Q1までにサプライチェーンの多様化とコスト競争力のある次世代バッテリー調達戦略を確立しておかないと、市場シェアを大幅に失う可能性が高い。今から複数サプライヤーとの交渉を加速すべき。

□ Quick Win：今週中に中国のEV専門メディア（Gasgoo, China EV's Market）のニュースレターを購読し、中国OEMの全固体電池量産計画とコスト動向を週次でモニタリング開始する。

受託製造メーカーへの行動提案

Contract Manufacturer LiCAP Technologies、Qingtao Energy、CALB、SVOLT、Hygenco Green Energies

LiCAP Technologiesは米国DOEとCECから計1,243万ドルの助成金を受け、全固体電池の乾式電極製造能力を拡大中。中国CALBとSVOLTは2026年下半年に半固体電池の量産を開始する。

リスク

- 全固体電池の量産技術が未確立なため、初期投資回収に遅延が生じるリスクがある
- 中国の半固体電池メーカーが急速に能力を拡大し、国際市場での競争が激化する
- ペロブスカイト太陽電池の耐久性課題が解決せず、量産化の需要が伸び悩む

機会

- 全固体電池向け固体電解質（2032年7.43億ドル市場予測）の受託製造で、日系OEM・材料メーカーと提携する
- 乾式電極技術（エネルギー消費30-50%削減）を導入し、全固体電池製造のコスト競争力を高める
- グリーン水素電解槽（2026年生産能力倍増予測）の部品製造やシステム統合で、欧米のプロジェクトに参入する

今週のアクション

- Q4 2026までにLiCAP Technologiesの乾式電極技術に関する技術提携またはライセンス契約の可能性を調査し、全固体電池製造プロセスへの導入を検討する
- 今週中に中国のバッテリーサプライヤー（CALB、SVOLT）の半固体電池量産計画を詳細に分析し、競合優位性を評価する

- 2027年までにペロブスカイト太陽電池のロールツーロール製造技術（Halocell Energy）を研究し、フレキシブルPV市場（2028年27億ドル）への参入戦略を策定する

□ シナリオ：もし全固体電池の量産技術が2028年までに確立されなかった場合、受託製造メーカーは同年Q2までに半固体電池の生産能力を大幅に増強し、過渡期市場の需要を確実に捉えておかないと、投資機会を逸する可能性が高い。今から既存ラインの改修計画を立案すべき。

□ Quick Win：今週中にLiCAP Technologiesのウェブサイトにて技術資料をダウンロードし、乾式電極プロセスの詳細と自社製造ラインへの適用可能性を初期評価する。

テストメーカーへの行動提案

Test & Measurement Equipment Manufacturer UL、NFPA、INFICON

BESSの安全性基準がUL 9540A第6版で厳格化され、設置レベルでの火災試験が義務化。NFPA 855は能動的な爆発制御システムを要求し、試験・認証の需要が高まる。

リスク

- 次世代バッテリー技術の標準化が遅れ、試験・認証プロセスの開発に遅延が生じる
- 中国市場独自の安全基準が乱立し、国際的な試験・認証サービスの展開が複雑化する
- ペロブスカイト太陽電池の長期安定性評価手法が未確立なため、認証ビジネスの成長が限定される

機会

- BESSの安全性基準厳格化（UL 9540A、NFPA 855）に対応する試験・認証サービスで、市場シェアを拡大する
- 全固体電池のデンドライト抑制技術（KAIST）や高温安定性評価（S1-25）向けに、高精度な計測機器を開発・提供する
- ペロブスカイト太陽電池の実環境下での耐久性評価施設（UNSW）向けに、長期モニタリングシステムを供給する

今週のアクション

- Q3 2026までにUL 9540A第6版およびNFPA 855の改訂内容を完全に理解し、BESS向け試験・認証サービスの提供体制を強化する
- 今週中にKAISTや高麗大学の研究チームと連絡を取り、全固体リチウム金属電池の界面安定性評価に関する共同研究の可能性を探る
- 2027年までにペロブスカイト太陽電池の長期安定性評価（25-40年目標）に対応可能な加速劣化試験装置を開発し、市場投入する

□ シナリオ：もしBESSの安全性基準が2027年までに国際的に統一されなかった場合、テストメーカーは同年Q1までに各国・地域独自の基準に対応できる柔軟な試験・認証サービス体制を構築しておかないと、市場参入障壁が高まりビジネス機会を逸する可能性が高い。今から各国の規制当局との連携を強化すべき。

□ Quick Win：今週中にUL SolutionsのウェブサイトにてUL 9540A第6版の変更点を詳細に確認し、自社のBESS試験サービスへの影響を評価する。

原材料メーカーへの行動提案

Raw Material Manufacturer 国軒高科、Gelion Technologies、Group14 Technologies、Sila Nanotechnologies、American Battery Technology Company (ABTC)、Redwood Materials、Cirba Solutions

国軒高科は全固体電池向けLi₂Sの低コスト合成技術を開発し、2030年までに固体電解質をRMB 30万/トンに引き下げる目標。ABTCは米国DOEから1.15億ドルの助成金を受け、国内リチウム精製所を建設中。

リスク

- リチウム価格の再上昇と供給逼迫が、バッテリー材料の調達コストを押し上げ、収益性を圧迫する
- 中国勢が固体電解質や高ニッケルカソード材料の低コスト量産技術を確立し、国際競争が激化する
- 鉛フリーペロブスカイト太陽電池の効率・安定性課題が解決せず、代替材料の需要が伸び悩む

機会

- 全固体電池向け固体電解質（2032年7.43億ドル市場予測）の低コスト・高性能材料を開発し、日系OEM・バッテリーメーカーに供給する

- シリコン負極材料（EV、eVTOL、AIデバイス向け）の体積膨張問題を解決する技術を開発し、高エネルギー密度バッテリー市場に参入する
- リチウム硫黄電池向けナノカプセル化硫黄（NES）カソード材料を開発し、航空宇宙・電動航空機市場（2035年12億ドル）に参入する

■ 今週のアクション

- Q4 2026までに国軒高科のLi₂S低コスト合成技術を詳細に分析し、自社の固体電解質材料開発戦略に反映させる
- 今週中に米国DOEのバッテリー材料助成プログラム（30億ドル規模）の応募要件を確認し、国内リチウム精製・リサイクルプロジェクトへの参画を検討する
- 2027年までにシリコン負極材料の体積膨張抑制技術（Group14 Technologies, Sila Nanotechnologies）に関する共同研究またはライセンス契約の可能性を探る

□ シナリオ：もしリチウム価格が2027年以降も高止まりした場合、材料メーカーは同年Q1までにナトリウムイオン電池やリチウム硫黄電池など、リチウム代替材料の開発・量産体制を確立しておかないと、コスト競争で不利になり、市場シェアを失う可能性が高い。今から代替材料への投資を加速すべき。

□ Quick Win：今週中にAmerican Battery Technology Company (ABTC) のリチウム精製技術に関する公開情報を収集し、国内サプライチェーン構築における自社の役割を検討する。

商社への行動提案

Trading Company 三菱商事、住友商事、TAMGO

リチウム価格の再上昇と供給逼迫により、バッテリー材料の安定調達に喫緊の課題。H-PowerはサウジアラビアTAMGOに燃料電池発電機を販売し、中東市場への展開を進める。

■ リスク

- 重要鉱物（リチウム、ニッケル、コバルト）の地政学的リスクと価格変動が、安定供給と収益性を脅かす
- 各国政府の国内サプライチェーン強化政策により、国際的な材料取引の機会が減少する
- 次世代エネルギー技術の標準化が遅れ、取引する製品ポートフォリオの選定が困難になる

■ 機会

- 全固体電池向け固体電解質や高ニッケルカソード材料の国際調達・供給ネットワークを構築し、日系メーカーのサプライチェーンを支援する
- グリーン水素（2026年生産能力倍増予測）およびその派生物（アンモニア）の国際取引市場に参入し、新たな収益源を確立する
- EVバッテリーリサイクル市場（2026年69億ドル予測）において、使用済みバッテリーの回収・流通および再生材料の取引を仲介する

■ 今週のアクション

- Q3 2026までに中国の全固体電池材料サプライヤー（国軒高科、Qianmo New Mat Jiaxing）との戦略的パートナーシップを検討し、日系OEMへの安定供給ルートを確認する
- 今週中にNEOMグリーン水素プロジェクト（年間120万トンアンモニア生産）の調達担当者と連絡を取り、グリーンアンモニアの国際取引に関する情報収集を開始する
- 2027年までに米国DOEのバッテリーリサイクル助成プログラム（4,480万ドル）の対象企業（Redwood Materials, Cirba Solutions）と連携し、再生材料の国際流通網を構築する

□ シナリオ：もし重要鉱物の地政学リスクが2027年以降も高まり、特定国からの供給が不安定になった場合、商社は同年Q1までに複数国・地域からの調達ルートを確認し、代替材料（ナトリウム、硫黄）のサプライヤーとの関係を強化しておかないと、顧客への安定供給責任を果たせず、信頼を失う可能性が高い。今からリスク分散戦略を具体化すべき。

□ Quick Win：今週中にS&P; Globalの水素セクターレポートを購読し、世界のグリーン水素生産能力と主要プロジェクトの動向を週次で把握する。

製造設備メーカーへの行動提案

Manufacturing Equipment Manufacturer YH Research (アイソスタティックプレス機), Metacon, Plug Power, Wärtsilä, Energy Dome, Tesla Megapack工場

全固体電池用アイソスタティック技術市場は2032年までに2.76億ドルに成長予測。Wärtsiläは世界初の大規模100%水素エンジン実証試験を開始。Teslaは年産50 GWhのMegapack工場を建設中。

リスク

- 全固体電池の量産技術が未確立なため、製造装置の仕様が頻繁に変更され、開発コストが増加する
- 中国の製造設備メーカーが低価格で市場に参入し、国際的な価格競争が激化する
- ペロブスカイト太陽電池の耐久性課題が解決せず、大規模生産設備への投資が抑制される

機会

- 全固体電池用アイソスタティックプレス機（2032年2.76億ドル市場予測）や乾式電極製造装置を開発し、日系・欧米のバッテリーメーカーに供給する
- グリーン水素電解槽（2026年生産能力倍増予測）や燃料電池システム（AIデータセンター向け）の製造装置・プラント建設で、市場を牽引する
- ペロブスカイト太陽電池のロールツーロール製造設備（Halocell Energy）や真空プロセス装置（KIT）を開発し、フレキシブルPV市場に参入する

今週のアクション

- Q4 2026までに全固体電池向け乾式電極製造装置（日産、LiCAP Technologies）のプロトタイプ開発を完了し、主要バッテリーメーカーへの提案を開始する

今週中にWärtsiläの100%水素エンジン実証試験の結果を分析し、大規模水素エンジン製造設備への参入可能性を評価する

- 2027年までにAIデータセンター向け燃料電池（FuelCell Energy）またはBESS（Tesla Megapack）の製造ライン構築に関する技術提案を策定し、顧客への営業活動を開始する

□ シナリオ：もし全固体電池の量産化が2028年以降にずれ込んだ場合、製造設備メーカーは同年Q1までに半固体電池の生産設備への投資を強化し、既存ラインの改修・増強ソリューションを提供しておかないと、市場の需要変化に対応できず、収益機会を逸する可能性が高い。今から半固体電池メーカーとの連携を深めるべき。

□ Quick Win：今週中にYH Researchの全固体電池用アイソスタティック技術市場レポート（S1-22）を購入し、主要プレイヤーと技術動向を詳細に分析する。

インパクトマトリクス (プレイヤー × トレンド)

++ = 大きな追い風 + = 追い風 0 = 中立 - = 逆風 -- = 大きな逆風

プレイヤー	TR-01 HIGH 次世代バッテリー	TR-02 HIGH AIデータセンター 新市場創出	TR-03 MID サプライチェーン リスク	TR-04 MID 高効率 長期安定性技術	TR-05 LOW 半固体 ハイブリッド
最終製品メーカー	++	+	+	++	+
受託製造メーカー	+	+	++	++	++
テストメーカー	+	++	+	++	0
原材料メーカー	++	+	++	++	+
商社	+	+	++	0	+
製造設備メーカー	++	++	+	++	++

今週のタイムライン (12件)

日付	タグ	ヘッドライン	出典
06.04 Tue	全固体電池	米国DOE、全固体電池とフロー電池を次世代バッテリー技術の主要柱として発表	U.S. Department of Energy
06.04 Tue	ペロブスカイト太陽電池	米国DOE、ペロブスカイト太陽電池の研究開発支援プログラム進捗を更新	U.S. Department of Energy (DOE)
06.05 Wed	全固体電池	日産自動車、LiCAP Technologiesとの提携により全固体電池正極製造に乾式電極技術を採用	Yoshi_eco
06.05 Wed	水素エネルギー	NEOM、年間120万トン生産の84億ドル級グリーン水素施設が最終建設段階へ	Air Products
06.08 Sat	全固体電池	Factorial Energy、Nasdaq上場と1.3億ドル調達を達成、全固体電池の実世界1,200km走行を実証	GlobeNewswire / Electrek
06.08 Sat	全固体電池	Helios Horizon、全固体電池を搭載した初の有人電動飛行機を飛行させ、エネルギー密度410Wh/kgを実現	Helios Horizon / Aviation International News
06.09 Sun	次世代蓄電	GMがPeak Energyと提携し定置型ナトリウムイオン電池を開発、AIデータセンターとセカンドライフBESSをターゲットに	Car and Driver
06.09 Sun	水素エネルギー	フラウンホーファーISE、太陽光-水素変換効率31.3%を屋外で達成する画期的システムを発表	Hydrogen Fuel News
06.10 Mon	次世代蓄電	中国、2026年容量料金導入でBESSコストを米国・日本より最大40%低減する政策を発表	S&P; Global
06.11 Tue	全固体電池	東風汽車、酸化物-ポリマー全固体電池で航続距離1,000km超を達成し2026年後半に量産開始へ	CarsGuide / SMM / Gasgoo (複数情報源統合)

日付	タグ	ヘッドライン	出典
06.11 Tue	水素エネルギー	Wärtsilä、スペインで世界初の大規模100%水素エンジン実証試験を開始	Wärtsilä
06.12 Wed	水素エネルギー	オマーンの42億ドル規模ACMEグリーン水素プロジェクト、第2フェーズが2030年に商業運転開始	Tankterminals.com

注目企業スポットライト

Factorial Energy [FAC] ↑ Nasdaq上場と1.3億ドル調達

全固体電池技術開発のFactorial EnergyはSPACとの事業統合を完了しNasdaq上場、1.3億ドル以上を調達した。同社のFEST全固体電池セルは375Wh/kg、600サイクル以上、18分で15%から90%充電可能で、Stellantisとの実路試験を開始。国防、航空宇宙、Eモビリティ向け次世代電池の商業化を加速する。

- 今週中にFactorial Energyの技術ロードマップと特許ポートフォリオを詳細に分析し、自社技術との競合・協業可能性を評価する
- Q3 2026までにStellantisとの提携内容を調査し、自動車OEMとの協業モデルを検討する
- 2027年までにドローン・ロボティクス分野への拡大戦略を策定し、新たな市場機会を探索する

Hygenco Green Energies ↑ 1億500万ドル株式投資を共同主導

インドのグリーン水素ソリューションプラットフォームHygenco Green Energiesは、IFC、シーメンス・フィナンシャル・サービスなどから1億500万ドルの株式投資を共同で主導された。この資金はインドでの複数の商業グリーン水素プロジェクト開発と、グリーン水素・アンモニア供給拡大に活用される。インドの国家グリーン水素ミッションを支援し、今後5年間で1,000人以上の直接雇用を創出する見込み。

- 今週中にHygenco Green Energiesの事業計画と技術パートナーシップに関する公開情報を収集し、インド市場への参入可能性を評価する
- Q4 2026までにインドの国家グリーン水素ミッション（NGHM）の詳細を分析し、関連プロジェクトへの参画機会を特定する
- 2027年までにグリーンアンモニア製造技術に関する共同開発または供給契約の可能性を検討し、インド市場でのプレゼンスを確立する

Energy Dome ↑ CO2バッテリーPlusを発表

Energy DomeはAIデータセンターの電力需要に対応するため、CO2バッテリーPlusという長時間エネルギー貯蔵プラットフォームを発表した。このシステムは二酸化炭素ベースのエネルギー貯蔵とガスタービンインフラを組み合わせ、容量劣化なしに30年を超える運用寿命を持つ。リチウムイオン電池と比較してコスト効率と持続可能性に優れ、2026年に米国で最初の商業パイロットシステムが稼働を開始する予定。

- 今週中にEnergy DomeのCO2バッテリーPlus技術に関するホワイトペーパーを精査し、自社のBESSポートフォリオとの比較分析を行う
- Q3 2026までに米国での商業パイロットシステム稼働状況をモニタリングし、技術の実証結果を評価する
- 2027年までにAIデータセンター事業者向けにCO2バッテリーPlusの導入メリットを提案する営業戦略を策定する

テクノロジーロードマップ

2026

- ◆ 東風汽車、酸化物-ポリマー全固体電池の量産開始 (S1-01)
- ◆ CALB/SVOLT、半固体電池の量産開始 (S1-07)
- ◆ 米国DOE、水素製造コスト1kgあたり2ドル目標 (S3-14)
- ◆ Energy Dome、CO2バッテリーPlus商業パイロット稼働 (S4-16)

2027

- ◆ BYD/SAIC Motor、全固体電池搭載EVの市場投入目標 (S1-06)
- ◆ Oxford PV、ペロブスカイト太陽電池の20年寿命達成目標 (S2-06)
- ◆ AIデータセンター向け燃料電池・BESSの導入加速 (S3-11, S4-01)

-
- ◆ テスラ、Megapack 3の出荷開始 (S4-12)

2028

- ◆ 日産自動車、全固体電池の市場投入目標 (S1-02)
- ◆ フレキシブルペロブスカイト太陽電池市場が27億ドルに拡大予測 (S2-02)
- ◆ テスラ、テキサスMegapack工場が年産50 GWhに到達 (S4-12)
- ◆ 自動車用ナトリウムイオン電池市場が1.93億ドルに成長 (S4-19)

2029

- ◆ FlexBase、世界最大2.1GWhのVRFBシステム完成予定 (S4-09)
- ◆ グリーン水素大規模プロジェクトの商業運転開始が本格化 (S3-01, S3-24)

2030

- ◆ 国軒高科、全固体電池コスト1元/Wh目標達成 (S1-03)
- ◆ EWEとSalzgitter、グリーン水素年間1万トン供給開始 (S3-03)
- ◆ オマーンACMEグリーン水素プロジェクト第2フェーズ商業運転開始 (S3-24)
- ◆ EVバッテリーリサイクル市場がさらに拡大し、再生材料供給が安定化する (S4-15)

参考文献一覧（全91件）

ID	タイトル	出典	日付	地域	サブトピック
S1-01	01_東風汽車、酸化物-ポリマー全固体電池で航続距離1,000km超を達成し2026年後半に量産開始へ	CarsGuide / SMM / Gasgoo (複数情報源統合)	2026-06-11	中国	全固体電池
S1-02	02_日産自動車、LiCAP Technologiesとの提携により全固体電池正極製造に乾式電極技術を採用	Yoshi_eco	2026-06-05	日本	全固体電池
S1-03	03_全固体電池の量産「元年」迎えるもコストが普及の主要障壁に、国軒高科がLi ₂ S低コスト合成で「1元Wh	China EV's Market / Gasgoo	2026-06-10	中国	全固体電池
S1-04	04_ABTC、ネバダ州リチウム精製所建設に向けたDOEからの1.15億ドル助成金を再承認	American Battery Technology Company (ABTC)	2026-06-08	米国	全固体電池
S1-05	05_米国エネルギー省、全固体電池とフロー電池を次世代バッテリー技術の主要柱として発表	U.S. Department of Energy	2026-06-04	米国	全固体電池
S1-06	06_中国自動車大手BYDとSAIC Motor、2027年に全固体電池搭載EVの市場投入を目標	KR Asia	2026-06-10	中国	全固体電池
S1-07	07_中国自動車メーカー各社が半固体電池EVを相次ぎ投入、バッテリーサプライヤーも2026年下半期に量産計	Internet Info Agency	2026-06-11	中国	全固体電池
S1-08	08_超高密度アルギロナイト固体電解質が全固体リチウム金属電池の3.8 mA cm ⁻² 高電流密度と1000	ResearchGate (Angew. Chem. Int. Ed. / JACS 参照)	2026-06-11	不明	全固体電池
S1-09	09_StellantisとFactorial Energy、北米で初の全固体電池搭載EVの実路試験を開始	Stellantis Media / Electrek / Autoweek	2026-06-11	米国	全固体電池
S1-10	10_全固体電池の普及に遅れ、半固体・ハイブリッド電池が過渡期ソリューションとして台頭	Geeky Gadgets / Solar Directory (Blog)	2026-06-09	不明	全固体電池
S1-11	11_錦州市凌河区、北京Judian Boyanと年間1G Wh容量の半固体電池生産ライン建設で合意	Energytrend	2026-06-09	中国	全固体電池
S1-12	12_日産、オックスフォード大学およびGelionと英国政府資金で硫黄系全固体電池CoRe-SoLiS研究	electrive.com	2026-06-05	英国	全固体電池
S1-13	13_米国DOE助成金を受けた研究チーム、プロトン伝導性電解質開発で大規模エネルギー貯蔵の安全性向上へ	Tech Briefs (PNASを引用)	2026-06-08	米国	全固体電池
S1-14	14_自己修復性ポリマー電解質が全固体リチウム金属電池で6000時間以上の超長寿命を達成、デンドライト抑制	ACS Applied Energy Materials (Journal)	2026-06-10	不明	全固体電池
S1-15	15_Qianmo New Mat Jiaxing、SK Onらが全固体リチウム電池用複合正極・固体電解質	GLOBAL IP NEWS (中国国家知識産権局、世界的知的所有権機関)	2026-06-10	中国	全固体電池

ID	タイトル	出典	日付	地域	サブトピック
S1-16	16_KAIST研究チーム、電解質へのチオフェン添加でリチウム金属電池の界面不安定性を電子構造レベルで解決	Tech Briefs (KAIST研究を引用)	2026-06-08	韓国	全固体電池
S1-17	17_ドローン用途向け全固体電池、320Whkgで飛行時間延長と安全性向上を実現か	Shenzhen Ebattery Technology Co., Ltd. (ZYE News)	2026-06-08	中国	全固体電池
S1-18	18_フィンランドのDonut Lab、「奇跡の全固体電池」が既存リチウムイオン電池の再パッケージと判明し	Tom's Hardware	2026-06-09	フィンランド	全固体電池
S1-19	19_ハライド固体電解質にCa、Mg、Alをドーピングすることでイオン伝導度向上と低活性化エネルギーを実現	ACS Sustainable Chemistry & Engineering (Journal)	2026-06-04	不明	全固体電池
S1-20	20_PVDC修飾PVDF-HFP電解質、全固体リチウム金属電池で3000時間超安定サイクルと高容量保持率	ACS Applied Materials & Interfaces (Journal)	2026-06-09	不明	全固体電池
S1-21	21_ナノファイバー構造複合ポリマー電解質、二重経路Li ⁺ 輸送と触媒的硫化物界面でリチウム-硫黄電池性能を	ResearchGate (PDF)	2026-06-08	不明	全固体電池
S1-22	22_YH Research、全固体電池用アイソスタティック技術市場が2032年までに2.76億ドルに成長	YH Research	2026-06-06	中国	全固体電池
S1-23	23_YH Research、全固体電池電解質市場が2032年までに7.43億ドルに成長、CAGR 49、	YH Research	2026-06-04	中国	全固体電池
S1-24	24_カリフォルニア州エネルギー委員会、LiCAP Technologiesに全固体電池製造拡大へ1,13	EV Infrastructure News	2026-06-08	米国	全固体電池
S1-25	25_研究者、リチウム金属電池向けに-40℃から55℃で機能する高電圧・安全な新規ポリマー電解質を開発	EurekAlert!	2026-06-08	不明	全固体電池
S1-26	26_Factorial Energy、Nasdaq上場と1.3億ドル調達を達成、全固体電池の実世界1,2	GlobeNewswire / Electrek	2026-06-08	米国	全固体電池
S1-27	27_Helios Horizon、全固体電池を搭載した初の有人電動飛行機を飛行させ、エネルギー密度410	Helios Horizon / Aviation International News	2026-06-08	米国	全固体電池
S1-28	28_デンマーク企業Svenner、6倍過充電・釘刺し試験に耐える新型バッテリーで海洋火災リスクを解決へ	Matt Sheahan	2026-06-11	デンマーク	全固体電池
S1-29	29_米国Tech Briefs、多層アノードフリーポーチセル向けに高温安定性と耐虐待性を高めた新規ゲル電	Tech Briefs	2026-06-08	米国	全固体電池
S1-30	30_Solidion Technology、人型ロボット・宇宙AIデータセンター・月面経済向け複合アノ	PR Newswire	2026-06-08	米国	全固体電池

ID	タイトル	出典	日付	地域	サブトピック
S1-31	31_24ChemicalResearchレポート、2026年EVバッテリー市場で高ニッケルカソードが長距	24ChemicalResearch	2026-06-11	不明	全固体電池
S2-01	01_鉛フリーペロブスカイト太陽電池の最新進捗：高効率化と安定性課題への戦略	ResearchGate	2026-06-04	不明	ペロブスカイト太陽電池
S2-02	02_Allied Market Research、フレキシブルペロブスカイト太陽電池市場が2028年に2	EINPresswire / Allied Market Research	2026-06-10	米国	ペロブスカイト太陽電池
S2-03	03_UNSWマーティン・グリーン教授、ペロブスカイト太陽電池の実環境評価施設設立で効率35.2%のタンデ	UNSW Sydney	2026-06-04	オーストラリア	ペロブスカイト太陽電池
S2-04	04_中国で3GW級ペロブスカイト工場建設進む、韓国Flexellは宇宙用タンデム生産へ、INFICONの	Perovskite-Info	2026-06-09	中国、韓国、イタリア、ドイツ	ペロブスカイト太陽電池
S2-05	05_延安大学が炭素系ペロブスカイト太陽電池で効率18.35%を達成、フッ素化ポリマー界面が安定性を向上	Perovskite-Info	2026-06-06	中国	ペロブスカイト太陽電池
S2-06	06_ペロブスカイト太陽電池の現状と未来：効率30.6%達成も耐久性10年が課題、Oxford PVは20	Sunsave	2026-06-09	英国	ペロブスカイト太陽電池
S2-07	07_オーストラリアHalocell Energyが60.6万豪ドルの政府助成金獲得、屋内用ペロブスカイト	pv magazine Global	2026-06-09	オーストラリア	ペロブスカイト太陽電池
S2-08	08_KITとバレンシア大学、高速・溶剤フリー真空プロセスでタンデム太陽電池の量産化を推進、バンドギャップ	Photonics Spectra	2026-06-08	ドイツ、スペイン	ペロブスカイト太陽電池
S2-09	09_米国DOE、2026-06-04にペロブスカイト太陽電池の研究開発支援プログラムの進捗を更新：27%	U.S. Department of Energy (DOE)	2026-06-04	米国	ペロブスカイト太陽電池
S2-10	10_米国DOE、次世代太陽光発電プロジェクトに継続投資：ペロブスカイトの効率25%超、鉛フリー化、安定性	U.S. Department of Energy (DOE)	2026-06-04	米国	ペロブスカイト太陽電池
S2-11	11_EU PVSEC 2026、持続可能なペロブスカイトPV商業化をテーマに特別イベント開催：スケールン	EU PVSEC	2026-06-04	ヨーロッパ	ペロブスカイト太陽電池
S2-12	12_米国DOEがペロブスカイトスタートアップ・プライズを更新、300万ドル規模で米国企業による研究から市	U.S. Department of Energy (DOE) Solar Energy Technologies Office (SETO)	2026-06-04	米国	ペロブスカイト太陽電池
S2-13	13_nanoGe NIPHO26会議がイタリアで開催、ペロブスカイト薄膜太陽電池の安定性・スケールアップ	nanoGe Conferences	2026-06-08	イタリア	ペロブスカイト太陽電池

ID	タイトル	出典	日付	地域	サブトピック
S3-01	01_NEOM、年間120万トン生産の84億ドル級グリーン水素施設が最終建設段階へ	Air Products	2026-06-05	サウジアラビア	水素エネルギー
S3-02	02_Wärtsilä、スペインで世界初の大規模100%水素エンジン実証試験を開始	Wärtsilä	2026-06-11	フィンランド	水素エネルギー
S3-03	03_EWEとSalzgitterがドイツで年間1万トンのグリーン水素を2030年より7年間供給する長期契	Pipeline Journal	2026-06-11	ドイツ	水素エネルギー
S3-04	04_LhyfeとSTRABAGがドイツ全土でグリーン水素プロジェクトの協業を加速	Hydrogen Fuel News	2026-06-09	ドイツ	水素エネルギー
S3-05	05_インドの国家グリーン水素ミッション、19,744クローネの初期予算で世界的リーダーシップを目指す	KRH News	2026-06-11	インド	水素エネルギー
S3-06	06_IFC、シーメンス・フィナンシャル・サービス、Fullerton Carbon Action Fun	International Finance Corporation (IFC)	2026-06-05	米国	水素エネルギー
S3-07	07_フラウンホーファーISE、太陽光-水素変換効率31.3%を屋外で達成する画期的システムを発表	Hydrogen Fuel News	2026-06-09	ドイツ	水素エネルギー
S3-08	08_ミネソタ州、持続可能な航空燃料（SAF）生産向けグリーン水素に政策インセンティブを導入	Fresh Energy	2026-06-10	米国	水素エネルギー
S3-09	09_アイオワ州、地下深くの「地質学的水素」探査で新たな水素経済構築の可能性を追求	Iowa State University News Service	2026-06-10	米国	水素エネルギー
S3-10	10_H-Power、アンモニア分解装置製バイオ由来グリーン水素5,000kgをProtiumに販売する契	chemXplore	2026-06-10	英国	水素エネルギー
S3-11	11_FuelCell Energy、2026年第2四半期決算でデータセンター向け電力戦略を推進、12.5	FuelCell Energy, Inc.	2026-06-08	米国	水素エネルギー
S3-12	12_水素航空スタートアップZeroAviaがシアトル地域から撤退し、事業目標を縮小	GeekWire	2026-06-08	米国	水素エネルギー
S3-13	13_MDPIがレビュー論文を発表：グリーン水素が統合型マルチエネルギーシステムの鍵を握る	MDPI	2026-06-12	スイス	水素エネルギー
S3-14	14_米国DOE、2026年までに水素製造コストを1kgあたり2ドルへ、燃料電池技術多年度計画発表	U.S. Department of Energy (DOE)	2026-06-10	米国	水素エネルギー
S3-15	15_トリニダード・トバゴ、長年のエネルギー国家としての遺産を活かしグリーン水素経済への移行を模索	United Nations Environment Programme (UNEP) via YouTube	2026-06-05	トリニダード・トバゴ	水素エネルギー
S3-16	16_スイスREMA、オンサイト生産と最適化された電解槽設計でグリーン水素コストを削減	Startupticker.ch	2026-06-09	スイス	水素エネルギー
S3-17	17_ENGIEとEuropean Energy、デンマークで最大150MWのグリーン水素生産プロジェクト	Hydrocarbon Processing	2026-06-10	デンマーク	水素エネルギー
S3-18	18_米国、データセンター向け燃料電池製造・導入が加速	Industrial Info Resources	2026-06-05	米国	水素エネルギー

ID	タイトル	出典	日付	地域	サブトピック
S3-19	19_S&P; Global発表：水素セクターの稼働生産能力、2026年に倍増の見込み	S&P; Global	2026-06-04	米国	水素エネルギー
S3-20	20_気候変動が世界のグリーン水素生産コストに最大20%の影響を与える可能性、MDPIが研究発表	MDPI	—	スイス	水素エネルギー
S3-21	21_ポルトガルGreenH2Atlanticプロジェクト、環境ライセンス取得で欧州のグリーン水素生産を加	Global e-Fuels	2026-06-11	ポルトガル	水素エネルギー
S3-22	22_Plug Power、2026年EBITDAS黒字化目標を再確認し、英国Barrowに初の5MW P	Stock Titan	2026-06-11	米国	水素エネルギー
S3-23	23_HELION Hydrogen PowerとM REFORMER、PEM燃料電池とメタノール改質結合	HELION Hydrogen Power	—	フランス	水素エネルギー
S3-24	24_オマーンの42億ドル規模ACMEグリーン水素プロジェクト、第2フェーズが2030年に商業運転開始	Tankterminals.com	2026-06-12	オマーン	水素エネルギー
S3-25	25_H-Power、LC30燃料電池発電機2台をサウジアラビアTAMGOに販売、極限条件下で試験運用へ	London Stock Exchange	2026-06-10	英国	水素エネルギー
S3-26	26_Metacon、進行中の50MW電解槽プロジェクトで120万ユーロの支払いを受領、制限された銀行資金	MarketScreener	2026-06-12	スウェーデン	水素エネルギー
S3-27	27_Sprintex、燃料電池用コンプレッサー技術をAIデータセンター市場へ展開する新戦略を発表	EnkiAI	2026-06-11	オーストラリア	水素エネルギー
S4-01	01_GMがPeak Energyと提携し設置型ナトリウムイオン電池を開発、AIデータセンターとセカンドラ	Car and Driver	2026-06-09	米国	次世代蓄電
S4-02	02_日産・オックスフォード大学・Gelionが英政府資金でリチウム硫黄固体電池を共同開発、コストと耐久性	Vertex AI Search (grounding-api-re direct)	2026-06-05	英国	次世代蓄電
S4-03	03_韓国KAIST高麗大学がリチウム金属電池のデンドライト問題を解決する「界面不安定性」制御技術を開発	Tech Briefs	2026-06-08	韓国	次世代蓄電
S4-04	04_シリコン負極電池の産業化が加速：2026年以降、EV、eVTOL、AIデバイス向け高エネルギー密度需	Internet Info Agency	2026-06-12	中国	次世代蓄電
S4-05	05_米エネルギー省がAmerican Battery Technologyに5,700万ドルの助成金を復	Waste Dive	2026-06-09	米国	次世代蓄電
S4-06	06_中国が電力貯蔵の利益パズルを解く：2026年容量料金導入でBESSコストを米国・日本より最大40%低	S&P; Global	2026-06-10	中国	次世代蓄電
S4-07	07_EUが中国への270億ユーロのバッテリー依存に対抗する新戦略を発表：許可期間短縮、15億ユーロ融資で	Battery Technology	2026-06-09	ヨーロッパ	次世代蓄電

ID	タイトル	出典	日付	地域	サブトピック
S4-08	08_米エネルギー省が国内バッテリー製造・リサイクルに30億ドルを助成、次世代EVバッテリーとLDESを支	U.S. Department of Energy (DOE)	2026-06-10	米国	次世代蓄電
S4-09	09_スイスFlexBaseがInvinity Energy Systemsと提携し世界最大2.1GWhの	Energy-Storage.news	2026-06-04	スイス	次世代蓄電
S4-10	10_Eos Energyが米エネルギー省から3億530万ドルの融資保証を獲得、亜鉛臭素電池製造ラインで年	U.S. Department of Energy (DOE)	2026-06-04	米国	次世代蓄電
S4-11	11_BEESの安全性と系統連系標準が厳格化：UL 9540A第6版で設置レベルの火災試験を義務化、NFP	JM Batteries	2026-06-10	米国	次世代蓄電
S4-12	12_テスラがテキサスに年産50 GWhのMegapack工場を建設、次世代Megapack 3と新Meg	basenor	2026-06-08	米国	次世代蓄電
S4-13	13_ハンガリーが最大40 MW 80 MWhのBEESプラントを稼働、MET GroupがHuaweiと	MET Group	2026-06-10	ハンガリー	次世代蓄電
S4-14	14_仮想発電所（VPP）が米国のエネルギー需要を管理：2035年までにマサチューセッツ州は3.5 GWの	Inside Climate News	2026-06-04	米国	次世代蓄電
S4-15	15_EVバッテリーリサイクル市場、2026年投資回収の重要分野に：市場規模69億ドル予測、95%超の金属	Invrecovery	—	米国	次世代蓄電
S4-16	16_Energy DomeがAIデータセンター向けにCO2バッテリーPlusを発表、30年超寿命と高効率	everything PE	2026-06-04	イタリア	次世代蓄電
S4-17	17_EV・BEES需要でリチウム価格が再上昇、2026年のバッテリー材料市場は供給逼迫と地政学リスクに直	Visual Capitalist	2026-06-08	国際	次世代蓄電
S4-18	18_米国のリチウムイオン電池リサイクルプロジェクトが55億ドル規模に急増、2026年までに年間50万台E	Industrial Info	—	米国	次世代蓄電
S4-19	19_自動車用ナトリウムイオン電池市場、2033年までに5.99億ドル規模に成長	MarketsandMarkets	2026-06-09	国際	次世代蓄電
S4-20	20_リチウム硫黄電池市場、2035年までに12億ドル超に拡大予測	SNS Insider	2026-06-05	国際	次世代蓄電

編集後記

次世代エネルギー技術、商用化の波に乗る。

今週の分析は、全固体電池、ペロブスカイト太陽電池、水素エネルギー、次世代蓄電といった各分野で、技術開発が量産化と市場投入の段階へと移行している明確な兆候を示した。特に中国勢は全固体電池の早期量産化で先行し、コスト削減に向けた具体的な目標を掲げる。一方、日米欧はサプライチェーンの国内化と多様化を強力に推進し、地政学リスクへの対応を急ぐ。この動きは、単なる技術競争に留まらず、国家戦略としてのエネルギー自給と脱炭素化の実現に向けた国際的な競争軸を形成している。

AIデータセンターの爆発的な電力需要は、燃料電池や大規模BESSといった次世代エネルギー貯蔵・供給技術にとって新たな巨大市場を創出している。これは、再生可能エネルギーの不安定性を補完し、電力網の安定化に貢献するだけでなく、分散型エネルギーシステムの普及を加速させる。また、リチウム価格の再上昇は、ナトリウムイオン電池やリチウム硫黄電池といった代替バッテリー技術への関心を高め、材料サプライチェーンの多角化を促すだろう。

日本の製造業や商社は、この急速な変化の波を捉える必要がある。中国勢の先行に対し、技術提携や共同開発を通じて競争力を維持し、国内サプライチェーンの強靱化に貢献することが求められる。特に、乾式電極技術や固体電解質材料、高効率電解槽、BESSの安全性評価といった分野で、日本の強みである精密製造技術や材料科学を活かす戦略が不可欠となる。また、AIデータセンター向けエネルギーソリューションの提供は、新たなビジネスチャンスとなるだろう。

- ◆ 中国勢が先行する全固体電池の量産化に対し、日本企業はどのような差別化戦略で対抗すべきか？
- ◆ AIデータセンターの電力需要増大を、日本の製造業・商社はどのように新たなビジネス機会として捉え、参入すべきか？
- ◆ リチウム価格の変動と地政学リスクが高まる中、重要鉱物の安定調達と代替材料への投資戦略をどう構築すべきか？

Troy Technical Weekly 編集部 編集アシスタント

次号予告 Vol. 49 2026年6月24日 月曜 06:00 JST 特集: エネルギー転換におけるAIの役割と新興市場

troy-technical.jp 独自キュレーション。記事著作権は各原作者に帰属。 | Gemini API + Claude | 2026年6月17日 月曜 06:00 JST